

# R

KANSAI  
UNIVERSITY  
NEWSLETTER



Man is a Thinking Reed.

# reed

No. 8

July, 2006

関西大学ニュースレター

発行日：2006年(平成18年)7月31日  
発行：関西大学 総合企画室広報課  
大阪府吹田市山手町3-3-35  
〒564-8680 / TEL.06-6368-1121  
<http://www.kansai-u.ac.jp/>

## ■鼎談

吉野 伊佐男 (吉本興業株式会社 代表取締役社長) × 森本 靖一郎 (理事長) × 河田 悌一 (学長)

# 笑いは横型社会の潤滑油

## 元気にいろいろな世界で活躍できる人材養成を！—1

### ■リーダーズ・ナウ—5

在学生—文学部3年次生・松村 久基さん  
文学部2年次生・安西 美帆さん  
卒業生—夢の街創造委員会株式会社 代表取締役社長  
中村 利江さん

### ■研究最前線

「宗門改帳」をデータベース化し、共同研究を推進  
庶民の一生を浮き彫りにする「歴史人口学」—7  
経済学部—浜野 潔 教授

固体に次ぐ液体の新しい「水素貯蔵材料」を開発  
水素を安全・コンパクトに貯蔵する—9  
工学部 先端マテリアル工学科—竹下 博之 助教授

### ■トピックス[学内情報]

来春、新学部開設  
政策創造学部、理工学系3学部  
千里山キャンパスに誕生—11

### ■連携事業 / 産学連携

近未来の立体映像技術—  
デジタル合成ホログラム—13  
工学部 先端情報電気工学科—松島 恭治 助教授

### ■連携事業 / 地域連携

吹田市との連携講座を開講  
文学部・吹田学—吹田の魅力とまちづくり—14

### ■関大ニュース—14・15

創立120周年記念行事  
関西大学アイスアリーナ竣工







# 笑いは 横型社会の潤滑油

元気にいろんな世界で活躍できる人材養成を！

吉野 伊佐男 ◆吉本興業株式会社 代表取締役社長

森本 靖一郎 ◆理事長

河田 悌一 ◆学 長

お笑いやバラエティー番組からシリアスな政治討論会、報道番組まで、吉本のお笑いタレントが大活躍です。東京進出も成功を収め、なにわ発のお笑いブームはどこまで広がるのでしょうか。関西大学OBでもある吉本興業社長の吉野伊佐男さんを囲み、笑いの文化と、笑いのパワーにも通じる「強い関西大学」について語り合ってもらいました。

## ◆笑いの芸能・文化を究める

**河田** 今日は、大阪難波の吉本興業本社を森本理事長とともにお訪ねし、吉野社長に「笑いの世界」のことを伺いながら、吉本と同じ大阪の風土の中で成長してきた関西大学についても話し合いたいと思います。吉野社長には5月27日に挙行された商学部の創設100周年記念式典で、同じく商学部OBの桂三枝さんと対談をしていただきました。吉本は、今や大阪のお笑いにとどまらず、日本を代表する芸能を扱う企業。そのあたりの事業展開などからお聞かせください。

**吉野** 商学部100周年のイベントでは、大変感激しました。母校を離れて42年。新しいキャンパスにも学生時代のノスタルジーを感じ、うれしい時間を過ごしました。私は関大卒業後、吉本一筋で他は何も知りません。吉本は創立94年で、私はその半分に在籍していることとなります。もともと寄席の劇場経営に始まり、この50年はテレビとともに発展させてもらったのが、おおまかな歴史です。これからはメディアの世界も多様化が進み、放送と通信の融合が盛んに言われています。メディアが増えてきますので、芸人やタレントの活躍の場も、今後はさらに広がっていくでしょう。私が入社した当時は同業も多く、競争が大変でした。今では業界でかなりのポジションを占めていますが、おごらず堅実に、とはいえ積極的に、関西だけでなく東京から全国へ、さらには海外にも進出したいと思っています。

**森本** 吉本興業の強さは本物ですね。私も、「強い関西大学」をキャッチフレーズに大学改革に取り組んでおり、着々とその成果が上がっております。マスコミや世間から、「最近の関西大学は勢いがありますね」と評価されています。ところで、吉本さんには、うちの卒業生もたくさんお世話になっており、御社と関大の縁は大変深いですね。

**吉野** 現在、副社長も関西大学出身者です。おそらく関大が持っている気風が、吉本の社風にぴったりマッチするのではないのでしょうか。

## ◆笑いの学部を一緒につくりませんか

**森本** 吉本には芸能学校もありますし、関西大学と吉本興業が手を組んで、大阪の発展のために、また笑いの文化を育てるために、笑いの文化と文芸を学べる学部をつくってはどうかと考えているんですが。

**吉野** もちろん大賛成です。できる限り協力させていただきます。実は東京のある大学では、すでに吉本から講師を出して授

業を行っています。昨今、笑いが人の免疫力を高めるという臨床例が出てきて、岡山の大学の先生は、がん患者さんを連れて、吉本の舞台を見に来られます。笑ったあとは免疫力がアップするのだそうです。笑いが持つ効能を、大学の教育で生かそうという動きが盛んになってきているのは、うれしいことです。

**河田** 関大でも桂文珍さんに15年間、そのあとは林家染丸さんに3年間、文学部で「日本伝統芸能史」の授業をお願いしています。去年は、桂三枝さんにも授業を持ってもらいました。大阪の庶民の文化としての笑いを追究するとともに、笑いの持つ効能を検証することができればいいですね。実際、「日本笑い学会」を本学名誉教授の井上宏先生が設立され、それを社会学部の本村洋二先生が応援して、全国的な活動に広がっていますから。

**森本** 今、関大は非常にいい時期だと思います。学長が教育面で積極的ですし、法人がそれを完全にサポートしています。今までは「車の両輪」と言ってきましたが、今や完全に一体となって教育研究の向上に努力しています。吉本興業とも一体になって、ぜひ、新しい分野を切り開いていきたいですね。

**吉野** うちの行政からも、いろんなお話をいただくのですが、行政の枠の中では思い切ったことができない部分があります。だからこそ、民間でやる意義は大きいと思います。

## ◆吉本も関大も「ファンを大事にする」戦略で

**河田** 関大では総合情報学部ができて以降に、新しい学部の創設はありませんでした。時代のニーズに応じた変革をしてゆかないといけないということで、来年4月、新しく「政策創造学部」がスタートします。この学部では、国際関係、政治、経済、経営戦略、法律、地域文化など多様な領域を横断的に学べます。関西の自治体や財界などの協力も得ながら、実践的な政策立案ができる人材養成の場にします。

工学部も1958年にできて48年。非常に大きくなった学部を、土戸工学部長はじめ工学部の先生方の努力で、ダイナミックに再編します。“しくみづくり”を学ぶ「システム理工学部」、”まちづくり”を学ぶ「環境都市工学部」、”ものづくり”を学ぶ「化学生命工学部」の3学部が誕生します。いい人材を輩出して、学生が関大に来てよかったと思えるように、多くのファンをつくっていききたい。こういう点は大学も企業も同じでしょうね。

**吉野** 吉本も、大勢のファンに支えてもらっている点は同じです。社長に就任してから改めて、ファンは大事にせなあかん、芸人さんやタレントさんも大事にせなあかん、マネジメントする社員も大事にせなあかと痛感しています。我々の世界は「人」で成り立っていますから、何らかの方法で社会に還元したいと考えています。

**森本** 大阪で、吉本が発展したのは訳があると思います。江戸文化では、笑いはご法度です。大阪は商人文化だから、笑い重視の社会。今も関西の笑いと、東京の笑いは違いがありますか。

**吉野** 笑いの何を本質とするか、境目が難しいのですが、テレビの世界のバラエティーなどにも進出させてもらっています。





**吉野伊佐男 (よしの いさお)**  
1942年大阪府生まれ。65年関西大学商学部卒業、吉本興業株式会社入社。広報室長、大阪制作本部ソフトクリエイティブ部長、取締役大阪本部長、常務取締役などを経て、2004年代表取締役副社長。05年1月代表取締役社長に就任。新しいメディア向けコンテンツの制作や人材育成を推進。

我々の世界は「人」で成り立っていますから、何らかの方法で社会に還元したいと考えています。

基本的なマインドが大阪の土壌で育った文化を持ち込んでいるわけで、東京の笑いとは大阪の笑いはほぼ一緒だと思います。上方落語と江戸落語では、少し語り口が違いますし、粋なところを狙う江戸、庶民生活を描く上方と、話のネタの違いはありますが、大きな差はありませんね。ちなみに吉本新喜劇は45年もやっているんですが、ストーリーはすべてハッピーエンド。永遠のマンネリでやっています(笑)。

**森本** 今、吉本の番組がなくなったら、日本は暗くなりますよ。わが国の繁栄にものすごく貢献しておられるということです。

**吉野** ありがとうございます。うちのタレントは本当に、よう頑張ってくれています。

**河田** 最近では中国でも笑いの伝統が復活していますが、上海でも、事業を展開されているそうですね。

**吉野** 上海ではディスコをやっています。IT関係の会社を買収して始めたもので、繁盛していますよ。政治の問題はさておき、まずは文化の面で仲良くできればというわけです。

#### ◆“笑い”の地位は急上昇中

**森本** 私は常々、笑いは「横型社会の潤滑油」と言っています。笑いは、精神的な解放をもたらしますからね。

**河田** 中国の明の末期に編纂された『笑府』という本が、日本では江戸時代に訳されています(岩波文庫『笑府—中国笑話集』)。これが江戸の小噺とか、落語のもとになりました。中国の場合は、笑いが非常に大事にされ、司馬遷の『史記』にも「滑稽列伝」というのがあります。外交の場において、宮廷において、笑いをとる人が必要で、いろいろな笑いを駆使して国と国の交渉に当たった。笑いの伝統が、おそらく東アジア社会、特に中国にはあった。それらが、日本にも伝わったと考えられます。

**森本** しかし、その時分の笑いの人たちは、大変身分が低かったとされています。日本書紀に出てきますが、蘇我入鹿が殺さ

れた時、滑稽な仕草をする俳優(わざおき)、いわゆる芸人が入鹿の剣を預かります。それで入鹿は抵抗できずに殺された。それにしても、近年、芸人の地位は向上しました。「横型社会の潤滑油」という重要な役目を果たしておられるからでしょう。

**吉野** 私も同感です。芸人さんの地位の向上には、目を見張るものがあります。だからこそ自重も必要です。

**河田** ところで、吉野さんの関大生時代は？

**吉野** 私は関大では、グリークラブ(男声合唱団)に所属していました。入学式のとくに体育館で、グリークラブのメンバーが関大の学歌を歌ったのを聴いて、いたく感動して入部したんです。3年生まで、すごく熱心に活動していました。グリークラブは無伴奏の合唱団ですので、音を正確にとるにはメンタリティーを発揮しないと、なかなかアンサンブルがうまくいかない。心をつ一つにして、一致団結して目標のために頑張ることを学びました。グリークラブは、当時はメンバーが100人以上いました。今は運動部を除いては100人もクラブはないでしょう。

**河田** グリークラブは現在、現役は十数名のようですね。でも、入学式、卒業式にはOBの方々が集まり、一緒に歌って熱心に応援してくださっています。

**吉野** 私は、けっこう授業もまじめに出ていたほうなんです。しかし、最近の関大生は、何となく元気がなくなった気がします。普通の優等生になってしまったというか…。昔は梅田界限でも、関大生はすぐに分かったものです。おもしろいやつは、関大によくおった(笑)。

**森本** やっぱり、元気がないですか。私は、学生にもっと母校愛を持ってほしいと考えています。母校を愛することが、家族



**河田 健一 (かわた けんいち)**  
1945年京都市生まれ。大阪外国語大学中国語学科卒業。大阪大学大学院で中国哲学を専攻。86年関西大学教授。文学部長、副学長を歴任し、2003年10月学長に就任。1991年に在外研究員としてプリンストン大学で中国思想史を研究。文部科学省大学設置・学校法人審議会委員。社団法人日本私立大学連盟常務理事。

いい人材を輩出して、学生が関大に来てよかったと思えるように、多くのファンをつくっていききたい。



**森本 靖一郎 (もりもと せいいちろう)**  
1932年奈良県生まれ。関西大学文学部、法学部卒業。母校に奉職し、67年に関西大学教育後援会幹事に就任。「大学と家庭のかけ橋」をモットーに、大学と父母間に信頼の絆を作り上げた。飛鳥文化研究所の開設にも尽力。事業局長、常務理事を経て、2000年専務理事、04年10月理事長に就任。「強い関西大学」を提唱している。

私は常々、笑いは「横型社会の潤滑油」と言っています。笑いは、精神的な解放をもたらしますからね。

を愛し、社会を愛し、人類を愛する精神につながりますね。母校愛が学園を活性化し、明るくしてくれます。母校愛のない人間は、家庭を愛することも、会社も社会も、人類を愛することもできないと思うのです。

**河田** 今の学生は、母校愛を持ちにくい。だから学生をまとめるアイデンティティーが必要ですね。そのためには、スポーツクラブや吉野さんが入っておられたグリークラブなどの文化・学術のクラブやサークル活動が活発にならないといけません。

**森本** 「スポーツに強い関西大学」を実現するための一環として、昨年10月から「関西大学アイスアリーナ」の建設を進めていますが、間もなく竣工の運びとなります。日本の大学では初めて、国際競技規格の通年型アイススケートリンクが完成するというので、全国的に注目されていますが、高橋大輔君、織田信成君に続く世界レベルの選手がここで育ってくれればと願っています。

**吉野** まさに、「関大ルネッサンスをもう一度」というところですね。

#### ◆大阪の地に根ざし、元気な庶民性のある関大

**森本** 「関大ルネッサンス」という言葉は昭和22(1947)年、学長に就任された岩崎卯一先生が学生たちに向けて行った演説「学生諸君に告ぐ」に登場します。このスローガンは、戦後における学園再建の指標となりました。

**河田** それを私が借用して、もう一度「関大ルネッサンス」を、と呼びかけ、関大の活性化を提唱しているのです。

**森本** 学長は大学院教育を重視しようというお考えです。そうすれば学力も上がってきますからね。私は特色ある強い大学にするために、大学の将来構想の一つとして、シニア層を対象にした学部の設置などを真剣に考えています。

**河田** 高齢社会の到来で、アクティブシニアの方々を対象に、ニーズは非常に大きいと思います。若い学生諸君、現役の社会人の方々、そしてリタイアされた社会経験豊かなシニアの皆さんが三位一体になれば、まさに「関大ルネッサンス」到来です。

**吉野** ものすごくいいことですね。団塊世代がもうすぐ企業社会を卒業しますが、彼らにキャンパスを開放するわけですね。

**河田** その人たちの持っているノウハウを若い学生に伝えてもらえば、相乗効果で、お互いに活性化されます。先ほど、関大生の元気がなくなったようだとおっしゃいましたが、今の学生は知識中心主義になっていると思います。この社会で、何がいいのか悪いのか、どう変えていったらいいのか、自分で考え、解決する活力がすこし乏しいのかもしれない。

新学部はもちろん、これからの大学は自分で考え、提案する力を備えた人材を育成する場にしなければ。

**吉野** シニア向けのさまざまな対策は、学校やNPO、地域などでも今後増えてくると思います。そういう場を設けるのは、我々企業人の責任でもあります。

**森本** 私は新しい学部をつくることによって、既存の学部を活性化したいと考えています。高槻駅前の新キャンパス構想も、骨格が固まりつつありますが、幼児教育から高等教育、そして社会人までの生涯一貫教育にも、社会のニーズがある限り、取り組みたい。私は“泥臭い学校”というか、“骨太の庶民的な学校”をつくりたいんです。

**吉野** 私も関大は、大阪の土地に根ざした、泥臭い庶民の文化を形成していく学校だと思っています。でもちょっと気になるのは、昔は新入社員を一目見ると、関大卒だとすぐに分かったのに、最近では当たらなくなりました。

**河田** 昔は、関大へ入りたくて、あるいはこの学部へ、というものがあつた。今は、どうもそうじゃない、そのあたりの影響もあるのでしょうか。強い大学にすることで、個性豊かな、品格ある学生を育成していきたい。最後に、関大生にメッセージをお願いします。

**吉野** 私自身は吉本という企業に入って、一度も苦しいと思ったことはないんです。会社自体は苦しいことがありましたが、当時は入社したら一生を捧げるというような時代でしたしね。社長になって、インタビューを受けることが多くなりましたが、「ひと癖も、ふた癖もある芸人さんを使っている会社の社長が、意外に普通の人ですね」と驚かれるんです。

後輩の皆さんには、関大の建学の精神をもう一度思い返して、行動してほしいですね。私は、会社の経営理念を書いた手帳をいつも持ち歩いています。つねに理念に立ち返ることを習慣づけて行動するのと、何気なく行動するのとでは全然違います。元気な庶民性のある、いいやつが集まりが関大生のDNAだと思っています。そういう精神を引き継いでもらって、元気にいろんな世界で活躍できる人になってほしいですね。

**森本** 関西大学の建学の精神は、学歌がそのまま表しています。学歌を歌って、関大生としての誇りを持って、勉学に励んでもらいたいものです。今日はありがとうございました。



# LEADERS NOW!



松村さんと安西さんが射撃を始めたのは、高校に入学してから。二人とも射撃の強豪校、滋賀県立水口高校の出身で、松村さんが1年先輩です。

射撃の歴史は古く、オリンピック種目として第1回アテネ大会からある競技です。ライフル射撃は、エアライフル(空気銃)と火薬を用いるスモールポアライフルの2種類が基本で、撃つ姿勢、射距離、弾数などによって種目が異なります。松村さんが優勝したのは、エアライフル立射10m・60発の競技です。精密度を高めるため、徹底して集中力が要求されるメンタルなスポーツといえます。精神を集中することの厳しさが、同時に射撃というスポーツの面白さになっているようです。

「相手の動きに対して自分がどう反応するかという人対人の関係ではなく、自分の前には的しかなくて、言ってみれば、自分対自分の関係なのです。上達すれば結果がそのまま点数に表れるので、自分の上達具合、成長度が分かるところが魅力です」。射撃は自分との勝負だという松村さんの意見に、安西さんも賛成です。

「射撃に波があり、いい時もあれば悪い時もある。常にベストな自分のパフォーマンスを出すことが難しい」と松村さん。「射撃は自分の精神状態が出てしまう。周りの期待はありがたいのですが、勝たなければいけないプレッシャーで、力みすぎてしまう。一度、引き金が引けなくなったことがあります」と安西さん。それを克服するために練習を積んでいる二人に、いろいろ聞いてみました。

——練習で気をつけていることは？

**松村** 「練習方法は基本的に個人に任されています。僕はひたすら的を目指して引き金を引き続けます。試合に出るのが、何よりもメンタルなトレーニングになると思います」

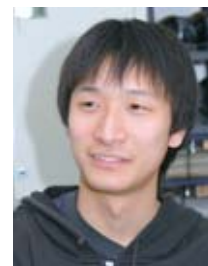
**安西** 「自分のリズムを毎回同じように繰り返せるように練習しています。練習と同じことを本番でもしてしまうので、練習で

体育会射撃部の安西美帆さんが2月17～19日、ドイツのウィズバーデンで開催された International Competition Air Weapons (欧州エアガン大会) 女子の部で見事、優勝しました。同じく男子の部で松村久基さんが8位に入賞。松村さんは昨年11月25日、ハンガリーのブダペストで行われた世界学生射撃選手権大会の団体戦で、優勝の栄冠に輝いています。松村さんの589点は日本チーム最高得点、また個人戦でも4位に入賞しました。関西大学射撃部のホープ、今が旬の二人に聞きました。

## 射撃はひたすら自分との勝負

国際大会で続いて優勝！  
「常にベストな自分のパフォーマンスを」

- 文学部3年次生 松村 久基さん
- 文学部2年次生 安西 美帆さん



松村久基—まつむら ひさき  
■1986(昭和61)年、滋賀県生まれ。滋賀県立水口高校卒業。文学部3年次生、第1部体育会射撃部所属。



安西美帆—あんざい みほ  
■1986(昭和61)年、滋賀県生まれ。滋賀県立水口高校卒業。文学部2年次生、第1部体育会射撃部所属。

も手を抜かないことが大事」

——試合に臨んでは？

**松村** 「できるだけ試合ということ意識せず、60発撃つだけじゃないかと思いつつ試合に臨んでいます」

**安西** 「自分よりレベルの高い人と戦う大会は、自分はチャレンジャーとしてどこまで戦えるか、挑むような気持ちです」

——上達具合や自分の強みは？

**松村** 「射撃は点数で争う。今までの点数を見ていると、少しずつでも向上しているのが分かります。どれだけ緊張していても、引き金を引く思い切りのよさはあると思う」

**安西** 「決勝戦などで応援がすごいと、前は上がってしまっちゃんとして競技ができなかったのですが、今はそれを楽しんでできるし、何よりも試合が楽しい。根性だけは誰にも負けません」

二人は「国際大会でもっと活躍できるように」、将来を見据えて、自分を鍛えています。

「起業のススメ」と題するセミナーが5月20日、関西大学BIGホール100で開かれました。関西大学商学部創設100周年記念事業の一環として、商学部と社団法人関西ニュービジネス協議会が主催。講師を務めたのが中村利江さん。日本最大のデリバリーサイト「出前館」を運営しているネットビジネス企業の代表取締役社長です。似たようなビジネスモデルはいくつも登場しましたが、軌道に乗り大きく成長したのは唯一、中村さんの会社だけです。どこが違うのか、その秘けつに迫りました。



関西大学BIGホール100で開催された講演会

## 関大時代の起業がビジネスの原点

デリバリーサイト運営に手腕を発揮  
「毎日一つ新しいことに取り組み」

- 夢の街創造委員会株式会社 代表取締役社長  
中村 利江さん—文学部1988年卒業—



中村 利江—なかむら りえ  
■1964(昭和39)年、富山県生まれ。88(昭和63)年、関西大学文学部卒業、リクルート入社。90年同社退社。97年ハークスレイ入社。2002年夢の街創造委員会株式会社代表取締役社長に就任。06年へラクレスに上場。

中村さんは人生の一番の転機として、学生時代、起業にチャレンジしたことを挙げました。関大1年の6月に始めた「モーニングコール」の事業は、男子学生が「女の子が起きてくれたら眠くても起きられる」と話しているのを聞いたことがきっかけ。電話を利用し、女性の声でさわやかにサラリーマンを起こすビジネスです。「サークルのノリで友人とお金を出し合っ始めた仕事」は、事業としては成功しませんでした。人のつながりができて、仕事の面白さが分かったことで、大きな意味がありました。

「学生時代の4年間は、社会人との中間地点でいろんなことに挑戦できます。勉強のネタもたくさん提供してもらえ、アルバイトに精を出すのもいいし、サークル活動に打ち込むのもいい。社会に本格的に羽ばたく前の試運転ができることで、失敗してもそんなに傷付かない。自分が何をやりたいのかを知るためには、いろんな体験が必要。私はたまたまビジネスが自分に合っていることが分かった。さまざまな経験をしようと思えば、関大のような門戸の広い大学がいいと思います」

「モーニングコール屋さん」以外に、リクルート社でアルバイトをして、大忙しの4年間を送りました。卒業後、リクルートの正社員になり東京へ。営業部門で成績を上げて、希望通り大阪に転勤。やがて出産を機に退社。その後、「ほっかほっか亭」のチェーン店を展開するハークスレイに就職し、次々にアイデアをまとめた企画書を提出。その一つが、パソコンや携帯電話を利用したネット受注のシステムでした。

しかし、すでに「出前館」が稼働していることを知り、自社

独自のシステムよりも多くの店舗が参加するポータル的な出前サイトのほうが、コストも集客性も優れていると判断し、出前館に加入しました。最初は顧客であったわけです。利用者の視点から見ると、サービスの不備やシステムの欠陥がよく目に付きます。それを指摘し、改善していくうちに、出前館のアドバイザー的な存在に——。

中村さんはハークスレイを退社し、企画・コンサルティング会社を設立。出前館を運営する夢の街創造委員会株式会社は、赤字続きでしたが、「将来、大化けする可能性がある会社」という確信があったそうです。同社の創業者から抜群の企画力と行動力を見込まれて、2代目の社長に就任。問題点を探り、営業に奔走しました。

「忙しい現場でパソコン操作は無理。ネットで受けた注文をメールで加盟店に知らせる仕組みを改め、自動でファクス送信し、電話で確認する二重チェック体制にしたら、注文を見落とすことがなくなりました。また、ネット注文受け付けを知らせるチラシを、社内の簡易印刷機で刷って地域に配って回りました」。ITとはほど遠い手法ですが、お店との信頼関係の構築につながりました。

起業家の先輩として、関大生へのメッセージを——。

「社員にも言っていることですが、毎日一つ新しいことに取り組みなさいと。今までやっていないことをするほうが面白いし、その時間を使って自分が成長できる。思っているだけでは何も始まりません。困難なことに向かえば、後で楽しみが得られます」



■研究最前線

「宗門改帳」をデータベース化し、共同研究を推進

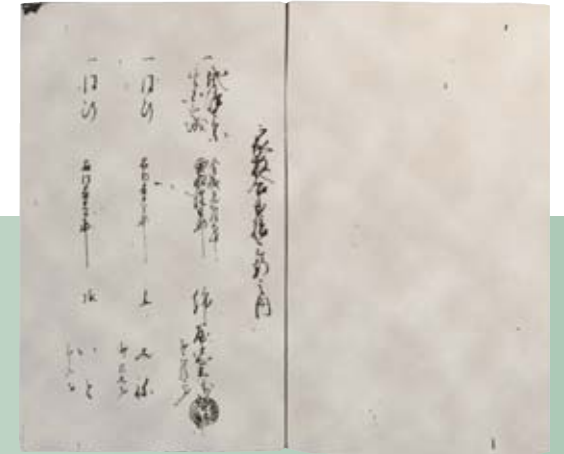
# 庶民の一生を浮き彫りにする “歴史人口学”



宗門改帳の表紙



宗門改帳の本文



京都は都市の歴史人口学研究に最適の場所——

●経済学部 浜野 潔 教授

江戸時代の村や町で作成された「宗門改帳」が、コンピューターと出会うことで、新しい光を放ち始めています。家ごとに名前、年齢、続柄などを記した史料が、「歴史人口学」の方法で集積、分析されると、歴史に埋もれた庶民の一生や家族の暮らしぶり、町の動きが目の当たりに浮かび上がってくるようです。歴史人口学の第一線で研究を深めている浜野潔教授に、その方法や成果について聞きました。

## ■日本における歴史人口学は「宗門改帳」から

《歴史人口学は、人口史の研究を大きく変えました。フランスの人口学者ルイ・アンリが第二次世界大戦後、前近代社会の人口推計データとして、キリスト教会に残されていた洗礼・結婚・埋葬の記録を使い始めたのが出発点です。フランスとイギリスで確立されたこの研究は、世界中の歴史学者・人口学者に衝撃を与えました。いち早くこの研究方法に着目し、日本に本格的に伝えたのが速水融氏（慶応義塾大学名誉教授）でした。浜野教授は慶応義塾大学で、速水氏から直接学びました。日本における歴史人口学の研究は、全国にある「宗門改帳」を使って始まります。宗門改帳とは——》

宗門改帳とは「島原の乱」後、キリスト教を禁止し、全国民が仏教徒であることを村・町ごとに証明させた文書です。1638年には幕府直轄領で、1671年からは全国的に毎年作成が義務づけられました。家ごとに名前・年齢・続柄が書かれ、中には、持高・牛馬数や結婚・養子縁組・出稼などの移動情報が書かれたものもあります。

宗門改帳は、村の人口、年齢別・男女別構成、家族構成など、さまざまなことを教えてくれます。連年にわたって大量の宗門改帳が残されていれば、得られる情報は膨大なものになります。毎年の変化を追うことにより、出生率、死亡率、結婚年齢などを知ることができます。また、一人ずつの一生を追ってライフコースの変化に焦点を当てることも可能です。

## ■地域差が大きい江戸時代のライフコース

《このような復元作業が容易でないことは想像できます。毎年の情報を家ごとにシートに書き写すという仕事を、年数分繰り返す必要があります。その膨大な情報を扱うのに、コンピューターはうってつけです。浜野教授は高校時代からコンピューターに興味を持ち、周りにはマイコンを組み立てているような友人もいたそうです。しかし、パソコンが普及する以前のこと。コンピューターの教室に通い、自らプログラムを書いてデータを処理しました》

このデータから、当時の記録者自身も知り得なかったさまざまな出来事が明らかになります。例えば、同じ日本の中でも、大きな地域差のあったことが分かります。東北地方の農村では、女子は数え年15歳前後で、男子でも10代後半で結婚したのに対し、西日本の村では男女とも20代の、今とあまり変わらない年齢で結婚していました。なぜこのような違いが生じたのか。結婚年齢は出生率を規定する重要なファクターでしたから、出生率にも大きな違いがあったのではないかと、という予想ができます。

中部と西日本では、晩婚の西日本のほうが出生率が低いという予想通りの関係が見られますが、より早婚の関東・東北で子どもが少ないという、予想とは逆の結果が出ています。東北では低出生率のゆえに少しでも子どもを増やそうとして結婚が早まったのではないかと、という仮説を立てることができます。

家ごとに台帳化したBDS (Basic Data Sheet)  
このBDSは京都・西堂町の史料、綿屋忠兵衛一家の記録。1826(文政9)年以降、名前の明記してある年には( )が記入されている。当初、宗門改帳に年齢の記載の必要はなかったが、1843(天保14)年以降、記載されるようになる。



このような数字を積み上げて宗門改帳を読み解くと、江戸時代の人々のライフコースが少しずつ浮かび上がってくるのです。

## ■幕末の京都に生きた人々を追って

《浜野教授は1996年に関西に移ってからは、京都の歴史人口学をテーマとしています。江戸の史料は関東大震災や空襲で灰燼に帰しましたが、京都は古文書の宝庫です。宗門改帳を含む数多くの近世文書が残されており、「都市の歴史人口学を研究する最適の場所と確信するに至った」と言います》

分析している京都の町の一つ、西陣の花車町では1819(文政2)年から1868(明治元)年まで50年のうち、36年分の宗門改帳が残されています。平均世帯規模は3~4人と比較的小さく、夫婦と子ども数人からなる世帯が典型的な家で、單身世帯も比較的多かったのです。彼らの多くは借家住まいで、転職したり家族が増えたりすると、すぐに新しい場所に移りました。その一方、奉公人も含めて7~17人の世帯規模で、この町に住み続けている家もありました。

観察できる50年間の間に、町の人口は2度大きく落ち込んでいます。まず1836~37年、天保の飢饉により、花車町では1年間に人口が32%も減少しました。未曾有の不景気で「商売が暇」になり、生活が逼迫している状況がうかがえます。2度目の人口減少は、1858(安政5)年から1861(文久元)年の3年間で、人口が31%も減少。日米修好通商条約締結により自由

貿易が始まり、生糸の値段が高騰して国内市場に回る品物が不足したため、西陣は深刻な打撃を被ったのです。世帯数、奉公人も大きく減少しました。

このように宗門改帳が教えてくれる情報はきわめて豊富であり、幕末の京都に生きた人々の生き方を鮮やかに描いてくれます。彼らは歴史の表舞台に登場することはなかったのですが、したたかに生きてきたことを読み取ることができるのです。

## ■データベースを共有し、共同研究を展開

《現在、浜野教授は文部科学省の科学研究費補助金による研究に取り組んでいます。「近世日本の歴史人口データベースを利用した比較地域分析」と題する3年がかりの共同研究です》

この研究には、私以外に他大学の6人の研究者が参加しています。これまでの研究で蓄積されてきた歴史人口データを共同研究に適したデータベースとして整備し、さらに新たなデータを収集し追加する作業を進めています。甲南大学の中里英樹先生(文学部助教授)の研究室にサーバマシンを設置してデータを蓄積し、共同研究者がインターネットを介して検索、抽出することを可能にしました。

濃尾地方の新しい史料を入力するとともに、歴史人口学の研究が進んでいる福島県郡山市周辺地域との比較研究を行います。人口パターンが対照的な2地域を分析して、その違いが何によるものかを実証していきたいと思っています。



■研究最前線



固体に次ぐ液体の新しい「水素貯蔵材料」を開発

水素を安全・コンパクトに貯蔵する

◎工学部 先端マテリアル工学科 水素エネルギー材料研究室  
竹下 博之 助教授

環境破壊の原因となる石油やガソリン、ガスなどの化石燃料に代わるクリーンなエネルギーとして、「水素」が注目されています。水素で走る自動車など、水素エネルギーシステムの実用化が始まりつつありますが、普及のためには解決しなければならない大きな課題が残されています。水素を安全かつコンパクトに貯蔵し、取り出して活用するためには——。新しい「水素貯蔵材料」の開発に取り組んでいる竹下博之助教授の研究室を取材しました。

■クリーンな燃料=水素を輸送・貯蔵するために

——いま、なぜ「水素」なのでしょう。  
化石燃料の使用量が年々増加し、このままでは資源が枯渇してしまいます。もう一つ大きな問題は、燃焼時に二酸化炭素や窒素・イオウ酸化物などの有害物質が発生することです。二酸化炭素は地球温暖化の原因であり、窒素・イオウ酸化物は酸性雨の原因となって森林破壊などの悪影響を与えます。  
一方、水素は燃焼しても水（水蒸気）にしかならず、環境への影響が小さい。つまり、環境破壊につながる化石燃料に対して、水素はクリーンな燃料というわけです。そのため、水素を燃料としたエネルギーシステムの実用化・普及のための研究開発が世界中で行われています。例えば、水素を燃料とし、電気を起こしてモーターで走行する「燃料電池自動車」が、すでにリース販売されています。  
——水素エネルギーを実用化するのに、解決しなければならない課題は？

水素エネルギーのシステム化は、大きく分けて製造、輸送・貯蔵、利用というステップに分かれます。我々の研究は、輸送・貯蔵の部分です。水素は環境への悪影響が少ない、エネルギーの利用効率が高いなどのメリットがあるのですが、コンパクトに貯蔵したり輸送したりすることが非常に難しいのです。  
水素は常温で気体であり、そのままでは石油の場合よりずっと大きな燃料タンクが必要となり、自動車などには適しません。水素を液体にするとコンパクトになりますが、水素の沸点は-253℃なので、冷やすのに大きなエネルギーが必要になってしまいます。気体の水素を圧縮すればコンパクトになりますが、数百気圧という高い圧力が必要な上、万一ガス漏れしたら爆発の危険さえあります。

■常温常圧で貯蔵できる水素吸蔵合金（金属水素化物）

——水素を効率よく液体にするか、あるいは固体にして貯蔵し、エネルギーに転換する時に気体に戻す必要があるわけですね。  
水素という気体の燃料を固体または液体の状態に貯蔵するために、我々は水素を集中的に吸収してくれるような材料、つまり自動車であれば燃料タンクを開発しているのです。まず、固体材料の水素吸蔵合金（金属水素化物）の研究を始めました。水素吸蔵合金とは、室温・数気圧の比較的穏やかな条件下で、水素ガスを貯蔵し、外部へ取り出すことのできる合金のことをいいます。水素吸蔵合金を使うと、液体水素以上にコンパクトになり、ほとんどの水素が固体状態で貯蔵され、かつ圧力も低いので安全性が高いのです。



金属は独自の結晶構造を持っています。金属を一つのボールと考えると、ボールとボールを並べていくとすき間ができます。水素は金属に比べるとはるかに小さいので、金属と金属の大きなボールの間に入り込む小さなボールのような存在です。水素をそのすき間に埋め込むことによって、固体の中に取り込むことができます。  
気体の水素を液体にすることによって体積が800分の1程度になり、金属水素化物を使うと1000分の1かそれ以上に圧縮できます。また、金属水素化物のいいところは、常温・常圧などの比較的穏やかな条件で、水素を中に取り込んだり取り出したりすることができる点です。その典型的なものがニッケル水素電池に使われています。

■融解温度を下げ、液体で水素を貯蔵する新研究

——金属水素化物は、エネルギーシステムとして問題があるのですか。  
最大の欠点は重いことです。一定の場所に置きっぱなしにする用途であればいいのですが、車に乗せる場合は、タンク自身が重くなれば燃費が悪くなってしまいます。それに変わるものとして、錯体水素化物や有機化合物を利用して水素を貯蔵する方法があります。  
錯体水素化物に適当な触媒を加えてやると、水素の出し入れが可能になります。水素ガスに不純物が含まれていると、水素化物自体がダメージを受ける場合と、添加物の触媒のほうがダメージを受ける場合が考えられますから、水素ガスが不純物に対してどのくらい耐久性があるかということを研究しています。水素の貯蔵・輸送を考えると、繰り返し使用で性能が落ちてはいけませんから、例えばCO<sub>2</sub>ガスに対してどのくらい性能を維持できるかを研究しています。  
——錯体水素化物にも問題点はあるのですか。  
問題の一つは、水素以外の原子の移動が遅いため、室温よりもかなり高い温度が必要なことです。だいたい150~200℃の温度が必要になります。それを100℃以下、できれば室温にもつ

ていきたい。そこで我々が着目したのは、液体にする方法です。2種類の物質を混ぜた場合に、お互いに反応して別の物質を作るケースと、単純に混ぜて混合物を作るケースがある。後者の場合は、混ぜることによって融解温度が下がる場合があるのです。低い温度で液体になれば、原子の移動が容易になり、その状態で水素が入り出できるようになるだろうと考え、融解温度を下げて、液体の状態の水素を貯蔵する研究を進めています。  
それに、燃料を取り扱う際、最も都合がよいのは液体なのです。液体であれば、燃料を輸送するのではなく、燃料を含む材料全体を移してしまうことも可能になります。このアイデアを実証して、これから実用化を目指していきたいと考えています。

■自分で問題を発見して解決する習慣を！

——研究指導にあたって、力を入れていることは？  
発表しっぱなしで終わるのではなく、ディスカッションに時間をかけています。討論を通して学生自身も自分の知らなかったことをより深く理解できますし、発表者自身や教員が考えつけないようなアイデアが出て、お互いにいい面があります。また、研究テーマが似たもの同士が集まって自主的に勉強会をやって、情報交換することも大事です。実社会に出て、自分で問題を発見して、何とかして解決する習慣をつけてもらいたいからです。  
——危険物取扱者や高圧ガス製造保安責任者など、資格試験に対しては、ポケットマネーを出してサポートされているそうですね。  
合格したら受験費用と免許の申請費用などを出しています。資格取得のための勉強をすることによって、危険なものをいかに安全に取り扱うかということを学んでほしいという狙いがあるからです。水素をはじめ扱っている材料は、下手をすれば燃えたり爆発したりする危険性があります。固体材料の構造を知るため、エックス線を利用することもあります。一般の人が例えば危険かもしれないけれども、専門知識をもって安全に扱うことができこそ技術者です。



# 来春、新学部開設 政策創造学部、理工学系3学部 千里山キャンパスに 誕生

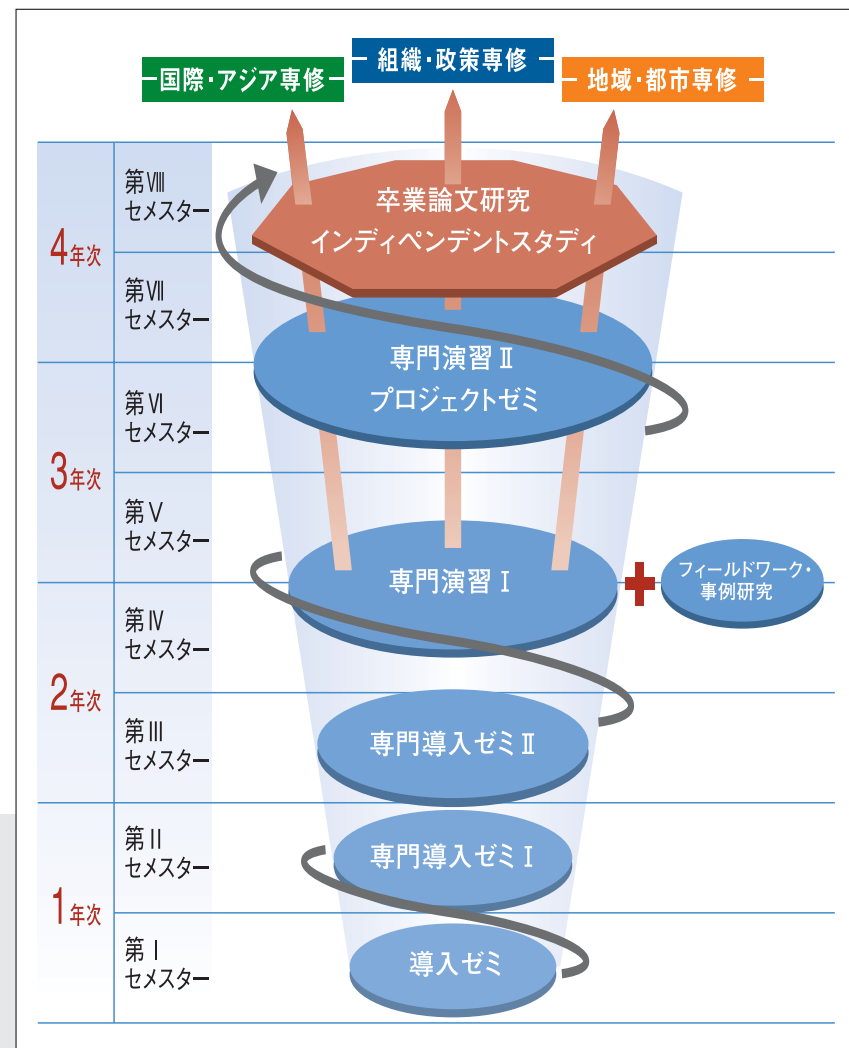
## 政策創造学部 (文部科学省への届出手続中)

実践的な政策立案力を養う――

2007(平成19)年4月、関西大学は新たに「政策創造学部」を開設します。3つの専修を設け、「実践的な政策立案力を養い、豊かな地球市民社会への扉をひらく」を学部コンセプトとし、真の実践的政策立案力を身につけた人材を育成します。

●政策創造学部では、次のような特徴的な教育方法により、即戦力となる「政策のプロ」を育成します。

- 1 少人数・双方向授業形態である演習(ゼミ)を重視した教育。入学から卒業まで本学専任教員が継続的に指導するスパイラルアップ型ゼミナール教育体系です。また、フィールドワークや事例研究を重視します。
- 2 産学官が連携したカリキュラムとして、行政及び企業の実務家を招いての講義や、近隣地方公共団体の長を招いた講義等も多数開講します。
- 3 基礎スキルとして「データ分析科目」を設け、情報リテラシー教育を重視します。
- 4 ステップアップ方式による英語16単位の修得など、外国語教育を重視します。
- 5 SF入試入学生を対象に、全学共通の授業科目であるインターファカルティ教育科目を最大40単位まで卒業所要単位に含めることで、高次元での文武両道を実現します。
- 6 キャリア教育科目を卒業所要単位に含め、1年次から「キャリアデザイン」科目を履修することで、早期に自己の将来設計を行うための指針を示しています。
- 7 GPA制度を導入することで、各学生の科目に対する習熟度を測り、効率的な知識の習得を確実にします。また、専任教員がアカデミック・アドバイザーとしての役割を果たすことで、きめ細かい指導がなされます。



### ◆3つの専修、教員スタッフが充実

本学部は「国際・アジア」「組織・政策」「地域・都市」の3つの専修を設けて、政策を決定・実施できる人材を育成します。教員スタッフは、政策創造学部学部長

予定者の孝忠延夫教授をはじめ、当初21人の専任教員の就任が決定しています。政策系、経済学系、アジア法学系各学会トップ経験者や、国際機関の第一線で実務経験がある外国人教員も含まれています。

## システム理工学部 環境都市工学部 化学生命工学部

新たな先端研究に挑み、高い創造性を培う――

工学のほぼ全領域をカバーする11学科を擁する学部へと発展を遂げた関西大学工学部が、来年4月、さらに大きく生まれ変わります。ダイナミックな再編により、3学部9学科20コースの多彩な理工学領域を実現します。

●新設する理工系3学部は、時代の変化に即応可能な柔軟性に富んだ教育を実践し、現代科学技術社会が求める有能な人材を養成するため、次のような特徴ある教育を行います。

## 関西大学 新生 理工学系の3学部

1学部11学科から3学部9学科20コースへと革新。充実した教育体制を基礎とし、専門的な知識・技術を蓄積していく体系的な教育プログラムで、優れた研究者・技術者を養成します。



### ◆3学部9学科20コースの多彩な理工学領域

3学部はそれぞれ、「しくみづくり」「まちづくり」「ものづくり」という「つくる」というコンセプトで、学ぶ内容をと

らえることができます。「しくみづくり」を学ぶ「システム理工学部」は、現代社会に必須なハード、ソフトウェアといった科学技術システムにおける高度で安全性の高い「しくみ」「しかけ」について研究し、工学の基礎

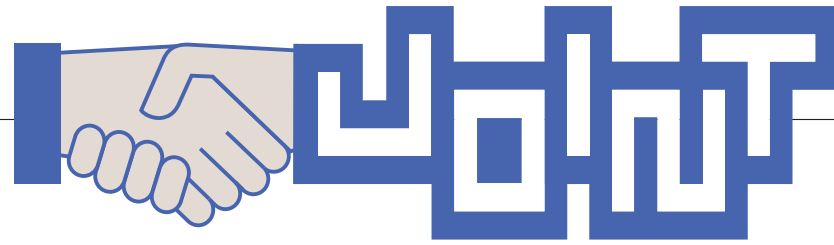
- 1 コース制を導入し、より専門的な教育プログラムを採用します。入学時に大きな領域から自分の興味を選択。下位年次は基礎を固め、自分に適した学びの領域を探ります。上位年次ではコースに分かれ、より探究したい分野を選択し、専門性・実践力を身につけます。
- 2 科学技術の発展に貢献するためには、自然科学の基幹的学問である数学、物理学といった理学的知識を身につけることが重要です。そこで新たに理学系の学科を開設します。
- 3 環境破壊、人口増加などますます深刻化・複雑化する課題の解決を目指して、環境、生命系の学問領域を拡充します。

知識と、理工学的専門知識を持った技術者の育成を目指します。

「まちづくり」を学ぶ「環境都市工学部」は、環境と人に配慮した安全かつ快適な都市空間や社会構築について研究し、問題解決能力や科学技術の知識と実践力を身につけた人材を育成します。

「ものづくり」を学ぶ「化学生命工学部」は、新素材や新エネルギーなど、未来が求めるものづくりを研究します。最先端の専門知識・技術を養い、さまざまな問題の解決に貢献できるスペシャリストを育成します。





■連携事業 / 産学連携

■連携事業 / 地域連携

## 近未来の立体映像技術— デジタル合成 ホログラム

点光源に代わるポリゴンモデル  
光波の計算手法を独自に開発

◎工学部 先端情報電気工学科 松島 恭治 助教授



工学部先端情報電気工学科の光情報システム研究室は、3次元画像表示技術の最先端で、ホログラムとその描画装置(高解像度プリンタ)を開発しています。また、CD・DVDの光ピックアップにも使われている、レーザー光を制御する最新の技術である回折光学素子の最適化設計なども研究しています。NTTドコモと共同研究を進めているデジタル合成ホログラムを中心に、3次元の立体映像へと進化するホログラムの技術について、松島恭治助教授に聞きました。

—従来からある3次元CGといわれる画像や、テーマパークなどで見られる立体映像と比べて、ホログラムはどこが違うのですか。

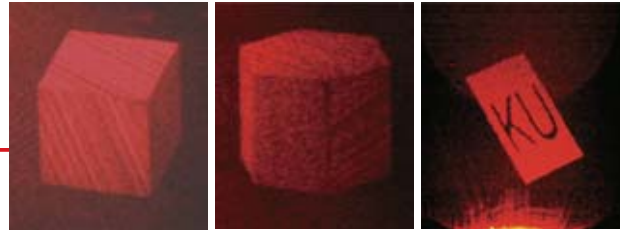
これらの立体映像技術の大半は、人間の目と脳による視覚の機能を、いわば「だます」ことにより、立体感を知覚させる技術でした。ホログラムは、これらの立体的な知覚を刺激する技術とは全く異なり、本来そこに物体があれば発せられる光そのものを、物体がない時でも作り出す技術です。光そのものを発生させるため、人間の立体知覚機能はすべて満たされ、完全な立体物として認識されます。

—デジタル合成ホログラムと今までのアナログホログラムとの違いは？

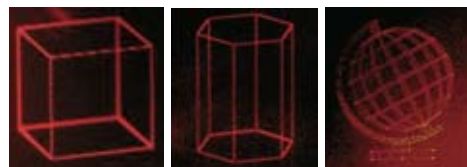
アナログホログラムはフィルム写真と同じ技術で、撮影するのに実在の物体(被写体)が必要であり、CGのように架空の映像を作り出せず、大きな物体や動き回る生物等の撮影は簡単ではありませんでした。デジタル合成ホログラムでは、実際には存在しない物体からの光を、あたかも物体がそこに実在しているかのように合成できます。また、ディスクなどの記録媒体に保存することも容易で、ネットワークや電波を通じて伝送あるいは放送することも可能です。

—ホログラムの実用化に向けて開発された独自の新技术とは？

物体の表面を細かく見ていくと、点の集まりととらえること



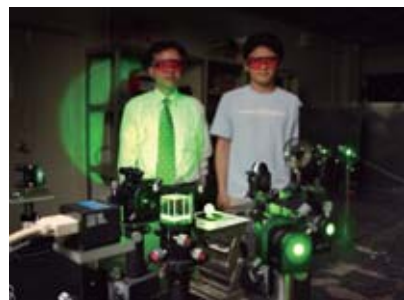
ポリゴンによる表面モデルのデジタル合成ホログラムの再生像



点光源によるワイヤフレームモデルのデジタル合成ホログラムの再生像

ができます。これらの点は太陽や電灯などの光源からの光を受けて、光を出していると考えられます。このような点光源からの光波を計算することは比較的容易ですが、莫大な時間を要します。

そこで、点光源という考え方を捨て、物体表面が多数の平面で構成されており、その平面が光を放っていると考え、その光を数値的に合成する手法を考案しました。物体表面を構成するこの平面をポリゴンと呼んでいます。これは、現在主流になっているCGの手法と同様の考え方に基づくものです。ポリゴンは、点光源数に比べてはるかに少ない数で済み、短時間で計算ができることとなります。



実際にはポリゴンはさまざまな形を持ち、またさまざまに傾いています。従来の光波を計算する技術では、傾いたポリゴンからの光を計算することは困難でした。そこで、まず「表面特性関数」と呼ぶポリゴン状態の設定手法と、傾いたポリゴンからの光を計算するための「光波回転変換」と呼ぶ手法を開発しました。表面特性関数は、ポリゴンの形状やそのテクスチャ(模様)、拡散性の情報を含んでおり、ポリゴンがどのように見えるかを決定します。光波回転変換は、高速フーリエ変換と呼ばれる方法を用いて傾いたポリゴンからの光を高速に計算するための計算手法です。

これにより、実在しない架空の物体が発するはずの光を、コンピュータシミュレーションによって発生させるための基礎技術が開発されました。小さな物体であれば、リアルタイムに近い速度で計算することも可能です。今後は映画のように、ホログラムを動画として表示する方向に研究を進めていきたいと思っています。現時点では、計算したデジタル合成ホログラムは、そのために開発した特殊な高解像度プリンタを用いて静止画として描画しています。

## 吹田市との連携講座を開講

### 文学部・吹田学 —吹田の魅力とまちづくり—

関西大学文学部は今年度春学期、文学部連携講座Ⅰとして「吹田学—吹田の魅力とまちづくり」を開講しています。吹田市の職員が講師を務める、リレー方式の半期完結授業です。



2004年8月に締結した「関西大学と吹田市との連携協力に関する基本協定」により、今回の連携講座を開講することになりました。

中央集権から本格的な地方分権時代を迎えた21世紀を、自治体がどのように切り開いていこうとしているのか、千里山キャンパスがある吹田市の取り組みを通じて、具体的な政策を考察。現場で実践する地方行政職員が講師となって、直面する課



題など実践例を交えながら学び、交流を深めます。

学生が将来、公務員、教職員、企業人などさまざまな仕事に就いても、社会貢献、地域貢献は必要になってきます。どの分野で活動する時にも役に立つように、吹田市新総合計画などをもとに、幅広いテーマで授業を展開しています。

第1回目の授業では、阪口善雄市長、河田悌一学長のトークセッションも行われました。

## 関西大学創立120周年記念行事

関西大学では創立120周年を記念する多彩な行事を展開しています。アイスアリーナ竣工記念「オープニングセレモニー」については、次ページで紹介していますが、このほか10月から11月にかけて、次のような行事や式典を実施します。

### ◎記念行事

#### ◆学術講演会

テーマ：「関西大学がはぐくんだ大阪と中国学」  
●場 所 千里山キャンパス  
●サブテーマ1 「中国学の展開と関西大学」  
基調講演 10月27日(金) 13:00～17:00  
パネルディスカッション  
10月28日(土) 9:30～14:00

●サブテーマ2 「日本の中の大阪文化遺産」  
基調講演・パネルディスカッション  
10月28日(土) 13:00～16:00  
舞楽公演 10月28日(土) 16:30～18:00

#### ◆創立120周年記念特別展示

本学のこれまでの足跡の記念展示、総合図書館所蔵の大阪画壇の作品展示  
●場 所：千里山キャンパス 10月4日(水)～11月4日(土)  
●総合図書館における大阪画壇作品展示は12月中旬までを予定。

## KANDAI NEWS

#### ◆「関西大学 日本・EU研究センター(仮称)」の設置

●10月に、ルーヴェン・カトリック大学(ベルギー)に「関西大学 日本・EU研究センター(仮称)」を設置予定。

#### ◆「Music - Campus - 音楽のプロムナード -」

「耳を傾けて聴く音楽」との出会いの空間と時間を創出する。  
●場 所：千里山キャンパス 10月26日(木)～28日(土)  
① 12:20～13:00  
② 18:00～18:30(最終日は12:20～のみ)

### ◎記念式典

#### ◆記念式典

●11月4日(土)【創立記念日】14:00～15:00  
●場 所：千里山キャンパス 第2学舎4号館 BIGホール100

#### ◆記念祝賀会

●11月4日(土)【創立記念日】15:30～17:00  
●場 所：千里山キャンパス総合学生会館 メディアパーク 凜風館 2階食堂





# ウィンタースポーツの 新拠点 誕生

関西大学アイスアリーナ竣工記念  
オープニングセレモニー開催



昨年10月から高槻キャンパスに建設を進めてきた「関西大学アイスアリーナ」が完成し、7月13日に竣工式と記念のオープニングセレモニーが開催されました。このアリーナは、本学創立120周年記念事業の一環として建設したもので、国際競技規格の通年型アイススケートリンクの設置は日本の大学では初となります。オープニングセレモニーでは、アイスショーやアイスホッケー交流戦が盛大に行われました。

関西大学の歴史に、また新たな1ページが加わりました。テープカットに引き続き、午前10時半から竣工式を挙行。午後2時から始まったオープニングセレモニーでは、森本靖一郎理事長、河田悌一学長のあいさつと、来賓代表として祝辞を述べた本学OBの冬柴鐵三衆議院議員から、「関西大学アイスアリーナ竣工記念オープニングセレモニーに寄せて」と題する小泉純一郎内閣総理大臣のお祝いメッセージが読み上げられました。

関係者によるくす玉開きのあと、待望のアイスショーが華やかに繰り広げられました。出場選手紹介、地元ジュニアスケーター(26人)によるグループスケート、関西の競技会上位選手(9人)によるエキジビションとプログ



ラムが進められ、いよいよ待ちに待ったトップスケーター(10人)によるエキジビション。本学アイススケート部の高橋大輔さん(文学部3年次生)、織田信成さん(文学部2



年次生)、平井絵己さん(経済学部2年次生)、招待選手として出場の村主章枝さん(avex)、安藤美姫さん(トヨタ自動車)、中野友加里さん(早稲田大学)

らが世界レベルの演技を披露。500人を超える観衆の目はリンクに釘付けとなりました。締めくくりは、トップスケーター全員によるグランドフィナーレ。軽快な音楽に乗って、息の合った華麗なダンスが披露されました。そして、最後は出場選手全員がリンク上に揃い、会場内は一段と大きな拍手に包まれました。

氷上整備が行われたあと、今度は雰囲気がガラリと変わって、同志社大学とのアイスホッケー交流戦が行われました。迫力あふれるプレーを目の当たりにして、観客席は一気にヒートアップ。結果は、1対1の引き分けに終わりました。



当日は報道陣も100人以上が詰めかけ、社会の関心の高さがうかがわれました。このアイスアリーナがウィンタースポーツの新しい拠点となり、その振興に大きな役割を果たすことを確信させる一日となりました。

## 国際競技・公式試合も可能 地域に開かれた施設に――

「アイスアリーナ」は、延べ床面積が3,598.50㎡、スケートリンクは縦60m×横30m。518人収容の観客席に電光掲示板、さらには高性能音響設備や更衣室等も完備。アイスホッケーの国際競技規格を満たしており、フィギュアスケートやスピードスケート・ショートトラックの公式試合開催も可能です。

関西大学や関西大学第一高等学校のクラブが使用することはもちろん、他大学のクラブや近隣の小・中・高等学校の課外行事などに対しても、積極的に開放することになっています。